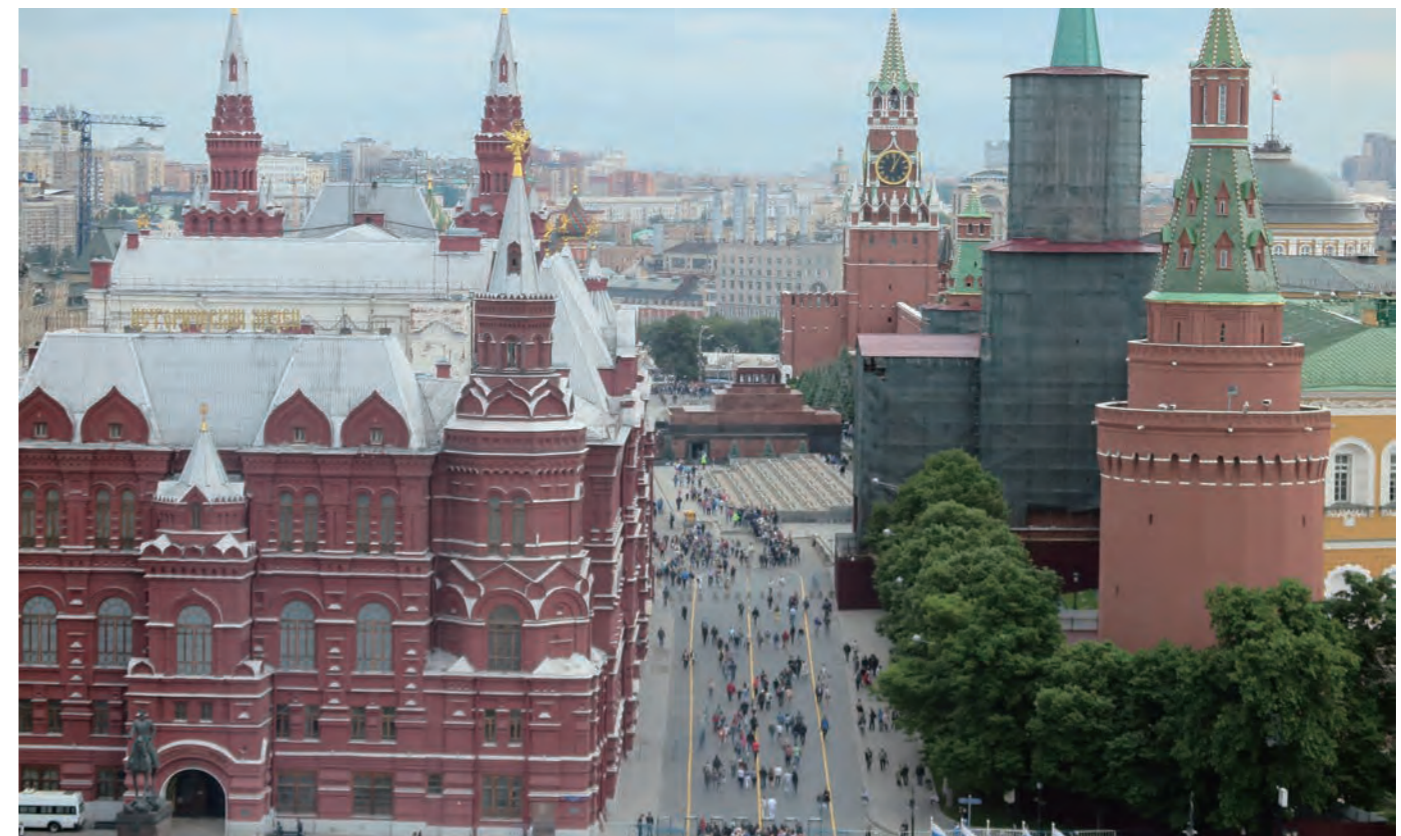




「The Ritz-Carlton Moscow」の開業は2007年7月、ソビエト時代の絶頂期にあった「インツォーリストホテル」を取り壊して全面的に建て直された。市内随一の目抜き通りのトゥベルスカヤ通りに立地し、正面ファサードは帝政ロシア時代の建築様式を模した威風堂々とした佇まいだ



最上階にある「O2 Lounge」のテラス席からの眺望。ソビエト時代の老舗ホテル「ホテル・ナツィオナーリ」越しに眺望する赤の広場やクレムリンは絶景で、まさにこのホテルの醍醐味とも言える



ガラス天井のドーム型キャノピーがそのまま正面エントランス車寄せを覆っている



ホテル正面エントランスでゲストを迎えるスタッフ



最上階にある「O2 Lounge」のルーフトップテラス席



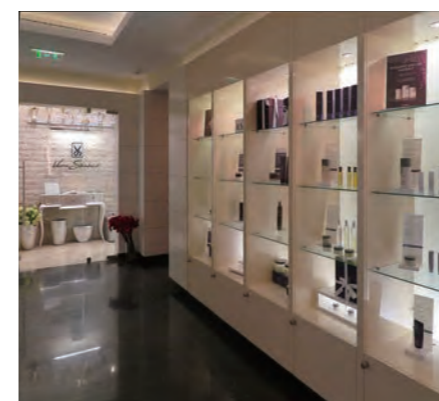
「O2 Lounge」の寿司コーナー。日本の寿司店「誠司」のシェフたちが握り、高評価を得ている



筆者 小原 康裕
 ホテルジャーナリスト
 慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
 現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸甚に存じます。



美しい曲線のステアケースからエントランスホールを望む



スパ施設「The Ritz-Carlton Spa in Moscow」にあるビューティーサロン「Vera Shubich」



スタイリッシュなスイミングプール

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

The Ritz-Carlton Moscow

「The Ritz-Carlton Moscow」（以下、RC/M）の開業は2007年7月、ソビエト時代の絶頂期にあった「インツォーリストホテル」を取り壊して全面的に建て直された。市内随一の目抜き通りのトゥベルスカヤ通りに立地し、正面ファサードは帝政ロシア時代の建築様式を模した威風堂々とした佇まいだ。他方、内装はクラシカルなデザインを



モスクワでは50軒以上のレストランを運営する著名な経営者、アルカディー・ノヴィコフ Arkady Novikov氏が率いるレストラン「Novikov Restaurant & Bar」。モスクワをグルメ天国に変えた男の人気レストランである



クラブフロアにある専用ラウンジのレセプションデスク



モスクワに滞在していることを忘れるような気品ある空気が流れる



メインダイニングの「Café Russe」とレセプションスタッフ



「Café Russe」のバーカウンター



ザ・リッツカールトン モスクワは地元セレブリティの間で結婚披露宴の人気が高い



ホテル最大の面積を誇る「The Ritz-Carlton Suite」のベッドルーム



書斎を含む237㎡のスイートで、リビングや寝室から赤の広場が見渡せる



「The Ritz-Carlton Suite」の応接室。コーナーにある見晴らしの良い部屋で、赤の広場がくっきりと確認できる



ジャグジー型のバスタブを備えた、ゆったりとしたバスルーム

基本的にエレガントな雰囲気とコンテンポラリーなインテリアが施されている。クレムリンや赤の広場の近くに位置し、ソビエト時代の老舗ホテル「ホテル・ナツィオナーリ」越しに眺望するクレムリンは絶景で、まさにこのホテルの醍醐味とも言える。

残念なのは、現在トゥベルスカヤ通りが全面工事中で正面玄関前は工事車両で塞がれているが、工事完成後はパリのシャンゼリゼに匹敵するモスクワ屈指のアベニューになる予定だ。RC/Mでの宿泊は、是非、クラブルームをお勧めしたい。専用のクラブラウンジは、モスクワに滞在していることを忘れるくらいの気品を保ち、NYのリッツカールトンと見間違えうくらいだ。また、最上階にある「O2 Lounge」のルーフトップテラス席からの眺望はモスクワの絶景として有名である。この寿司コーナーは、数あるモスクワの日本食レストランの中でも最高級といわれる「誠司」のシェフたちが握り、高評価を得ている。

RC/Mは、スイートを含む全334室を擁す11階建ての建物で、ガラス天井のドーム型キャノピーがそのまま正面エントランス車寄せを覆っている。今回はホテル最大の面積を誇る「The Ritz-Carlton Suite」を紹介したい。キッチンや書斎を含む237㎡のスイートで、リビングや寝室から赤の広場が見渡せる。レストランは充実しており、前述した「O2 Lounge」以外にも、メインダイニングの「Café Russe」、オールデイダイニングの「Novikov Restaurant & Bar」など多彩な構成である。スパ「The Ritz-Carlton Spa in Moscow」の設備は充実しており、スイミングプールやトレーニングジムはもちろんだが、特に医学的見地からセラピーを施術する独立したコーナーは特筆に値する。

RC/Mの大きな特徴はクレムリンや赤の広場の圧倒的景観であろう。「O2 Lounge」のテラスはもちろん、クラブラウンジや上層階の部屋からもその眺望を楽しめる。米口急接近に係る旬の話題になるが、トランプ大統領が以前この最上級スイートに宿泊した際に醜聞を残し、それがロシア当局に握られたという話が流布されている。憶測の域を出ないが、ある意味でホテルのグローバルな富裕層の顧客観を現していると言えよう。